

IDACAだより

第27号 令和2年9月18日

● 編集発行
(一財)アジア農協振興機関
責任者：小林 寛史
東京都町田市相原町 4771
TEL: 042-782-4331
FAX: 042-782-4384

《近況報告》

IDACAの新型コロナウイルス対策と各国の状況

国内の新型コロナウイルス感染者が8月20日に累計で6万人を超えたとの報道があり、感染拡大のペースが加速していると専門家が警鐘をならしておりました。ウイルスという不可視の恐怖によって我々の平穏な日常は一変しました。外出自粛やテレワークが推奨され、日本経済を潤してきた訪日外国人が街から消える中、当機関の事業の大きな柱である研修事業も打撃を受けております。

今年初めに実施したICA「農協運営改善のためのリーダー育成研修」以降、海外の研修員を日本に招聘して行う研修は実施しておりません。今年実施予定のその他の研修は軒並み中止または延期が決まり、研修方法もオンラインによる実施となりました。

当機関も行政やJA全中の指針をもとに役職員の出勤前の検温、出勤時の手指消毒の徹底、ドアノブなど頻繁に触れる場所のアルコール消毒、就業時のマスク着用、在宅勤務や時差出勤の励行、食堂での感染防止のため座席数を減らし対面に座らない工夫をするなど可能な限りの感染防止策を講じています。

また、5月より本年度の研修招聘予定国のコロナ関連情報（感染状況、各国政府のコロナ対策や入国制限措置）、日本政府の水際対策や各国の感染症危険レベルなどの情報をWHO（世界保健機関）、外務省、法務省、厚生労働省、各国の大使館のHPを参考に毎週（6月下旬からは隔週）収集し、事態が好転した場合に迅速な対応がとれるようにしています。

世界に目を転じると、全世界の感染者数の累計が8月24日に2,300万人を超え、パンデミック収束の兆しは見られません。そんな中、各国で協同組合の仲間が様々な取り組みを行い、組合員ならびに地域住民の生活を支援しておりますのでご紹介いたします。（次ページに続く）



ASEAN事務局から委託を受けて6月と7月にそれぞれ実施したオンラインの「ワークショップ」と「セミナー」は感染防止に留意した形で実施されました。

《目次》

- 近況報告..... 1
 - IDACAの新型コロナウイルス対策と各国の状況
- 研修事業報告..... 4
 - (1) 2019年度ICA「農協運営改善のためのリーダー育成」研修
 - (2) アセアン アジア・アフリカ地域キャパシティビルディング支援事業による「アセアン加盟国GAP認証に関するワークショップ」
 - (3) アセアン「フードバリューチェーン構築のための農業協同組合能力強化に関するオンラインセミナー」
- IDACA Facebook 情報..... 8
- 編集後記..... 8

1) ネパールにおける協同組合の取り組み（情報ソース：ICA-AP）

ネパール協同組合連合会（NCF）が中心となって集めたコロナ感染予防基金をもとに、4月2日モナモハン記念医大教育病院内にコロナ対策協同組合センターが設置され、カトマンズの感染防止対策における中核施設となっています。

ジャナクプル州では行政と連携し、農協がソーシャルディスタンスに配慮した形で野菜のデリバリーサービスを開始し、消費者に大変喜ばれているとの報告もあります。

組合員から生乳を集めて郡段階の酪農組合中央会が保有する牛乳工場に販売していたネパールの酪農協の多くは苦境にたたされています。政府のロックダウンで牛乳工場が閉鎖しているため集めた生乳の売り先を失ってしまったからです。そんな状況下でも代替の販路を見つけ組合員の所得を何とか確保しようとしているマヌ酪農協同組合のような前向きな農協もあります。



モナモハン記念医大教育病院内に設置されたコロナ対策協同組合センター（Cooperatives' Coronavirus Control Center (CCCC)）

2) インドにおける協同組合の取り組み（情報ソース：ICA-AP）

米国、ブラジルに次いでコロナの累計感染者数が世界で3番目に多いインド（8月20日現在）では、多くの協同組合が市民生活に必要な物資（穀類、米、レンズ豆）を無償で提供し困窮する人々に支援の手を差し伸べています。

また、生活協同組合の中には玄関先まで生活必需品を届けてくれるサービスを安価で提供しているところもあり、ロックダウンで家から出られない一般市民から好評を博しています。

さらに、インド農民肥料協同組合（IFFCO）は、感染拡大に歯止めがかからない状況を受けて、“コロナ感染の輪を断ち切ろう！”をスローガンに全国規模の啓蒙キャンペーンを実施しました。ソーシャルディスタンスの実践、除菌、健康的な食事、マスクの着用などの重要性を一般市民に伝えるとともに、様々な場所でビタミンC錠剤、薬用石鹸、マスク、消毒液などを配布しました。さらに、IFFCOは農家の営農に支障が出ないようコロナ禍でも肥料工場の操業を続けていて、所有する巡回車両で各圃場まで届けています。

また、全国農業協同組合販売連合会（NAFED）は政府からの委託を受けて、3か月間にわたって1kgの豆をコロナ禍で困窮している2億人の世帯に供給する政府事業「貧困層のためのフード・セキュリティ計画」に参画しています。NAFEDは貯蔵してある豆を倉庫や保管業者から引き取り、それを精豆し各州に届けています。



IFFCOは市民に薬用石鹸、マスク、消毒などを配布しています。（News ChromeのHPより）

3) フィリピンにおける協同組合の取り組み（情報ソース：2019年度ICA研修参加研修員）

2019年度のICAフードバリューチェーン・コーディネーター育成支援研修に参加した、フィリピン全国協同組合連合会（NATCCO）特別プロジェクト担当官のマリア・ベロニカ・シーラさんから、彼女の所属するNATCCOの新型コロナウイルス対策活動についての情報が寄せられました。以下はマリアさんからの報告です。

『フィリピンにおいても、新型コロナウイルス感染拡大が収まる兆しは見え、大変困難な状況です。私が所属する NATCCO でも、組合員と組合員が所属する協同組合を支援するために全力で取り組んでいます。その中で私が担当するグループは、NATCCO の傘下にある MICOOP グループで、81 の協同組合から構成されています。グループの COVID-19 関連活動を支援し、そのスタッフの健康状態もモニタリングしています。NATCCO の指揮のもと、私たちは PBSP (Philippine Business for Social Progress) 及び NGO の Bayanihan Musikahan (タガログ語でバヤニハンは相互扶助、ムシカハンは音楽の意味) と提携して、マニラ首都圏の特定地域に食品パックを提供しています。パートナーシップは非公式ですが、新型コロナウイルス感染拡大の対策として組織されました。このパートナーシップにより、3 つの協同組合を結び付けて、スラム地域に農産物を提供しました。

関係する 3 つの協同組合は次のとおりです。

1. タロイ農民多目的協同組合 (TAFARMCO) : 100 名の組合員農家が 54 トンの宅配用野菜を提供。この活動は、包装が必要だったので、雇用を創出しコミュニティーに追加の収入をもたらす。
2. パンガシナン貯蓄信用組合 (PASCOOP) : 50 名の組合員と漁民が 5 トンの干物を提供。
3. ゴールデンパンス多目的協同組合 (GOPANCO) : 100 名の組合員稲作農家が 71 トンの米を提供。この方式は、通常の仲介者を排除し、輸送に関する厳しい制限のため彼らの農産物を販売することが困難であった多くの農家を助け、また食料を必要としている 12,000 以上の家族に配布された。

組合員農家の農産物と市場を直接つなぐための活動は、NATCCO が将来的に行いたいと考えているプロジェクトの 1 つでもあります。』

医療従事者、コロナ対策にあたる公務員、農家、配送業者、スーパーやドラッグストアの店員さん、公共交通で働く方々などコロナ禍の中、感染リスクを恐れずフロントラインで奮闘している方々が世界中に多数いらっしゃいます。こうしたエッセンシャル・ワーカーの皆さんへの感謝と尊敬の念を忘れず、この未曾有の危機を皆で乗り越えよう。



野菜の袋詰め作業



支援用干物の製造作業



米の配送作業



届いた野菜の前に感謝を表す裨益者

《研修事業報告》

(1) 2019 年度 ICA「農協運営改善のためのリーダー育成」研修

本研修は ICA からの委託を受け実施している研修で、途上国の農協や農民組織の中核リーダー（または農民組織化を担当する行政官）の能力強化を目的としています。ブータン、カンボジア、キルギス、ラオス、ネパール、スリランカから 6 名が参加しました。

研修員はタイで協同組合の基礎等について学んだ後、2020 年 2 月 25 日に来日しました。翌日には、研修員の健康状態を確認するため JA 神奈川県厚生連の相模原協同病院を受診しました。

講義は概ね予定通り実施されましたが、視察などは新型コロナウイルスの感染リスクが高いことから中止が決定され代替プログラムを準備することになりました。予定していた JA 横浜の訪問は取止めとなりましたが、同 JA のきた総合センターと当機関をインターネットで繋なぎリモートで講義をして頂きました。

福岡県での現地研修も中止になりましたが、JA グループ福岡の全面協力のもとで作成した現地研修資料や拝借した DVD を使い、訪問する予定だった JA 福岡中央会、JA 福岡教育センター、

JA 全農ふくれん、(株)ふくれん、JA 糸島、JA 福岡八女、福岡市中央卸売市場の事業や取り組みについて担当職員が説明を行いました。また、農林水産省の小島裕章参事官にも急遽お願いをして政府が推進する「グローバル・フードバリューチェーン」についてご講義頂きました。

研修員は不平不満は一切言わず直向きに研修に参加していました。最後に自国の農業・農協強化のための「行動計画」を策定し、予定より 4 日早い 3 月 14 日に無事帰国しました。コロナ禍の中、本研修のためにご協力頂いたすべての皆様に心より感謝を申し上げます。



我が国のグローバル・フードバリューチェーン戦略について講義をして頂いた農林水産省の小島参事官（前列右から 2 人目）と研修員

Web 会議による視察受け入れ



横浜農業協同組合
組織部長 岩澤 邦弘

今般、IDACA のご協力により「農協運営改善のためのリーダー育成研修」受入れ先として貴重な体験をさせていただき誠に有難うございました。当初、当組合の概要説明や女性部活動の見学・圃場視察など様々な体験をしていただく予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により急遽リモートでの会議となりました。

研修は、JA 横浜の誕生から事業概要、組織の概況・組合員の意見反映、横浜の都市農業などについて画面を通して熱く語らせていただきました。研修員からは事業への女性参画、女性部や青壮年部の活動、貸出金の使用用途、長期共済の保障内容など熱心な質問が止むことはありませんでした。しかしながら、女性部の大正琴発表会や日本有数の生産量を誇る小松菜の圃場、都市農業の生産地、直売所などをご案内出来ず残念でなりません。直前の実施方法変更にも関わらず、IDACA や研修員のご理解と熱意が当組合初のリモート会議を成功に導いてくださり関係者に御礼を申し上げます。

(2) アセアン アジア・アフリカ地域キャパシティビルディング支援事業による「アセアン加盟国 GAP に関するオンラインワークショップ」

アセアン各国において、国際的に通用する GAP 認証の理解を促進することは、アセアン域内のフードバリューチェーンの強化のためにも極めて重要です。このため、アセアン事務局では、GAP 認証に関する世界のトレンドの講義、GAP 認証取得農産物を取り扱う民間企業の事例や GAP 実践農家の取組を紹介し、各国の意見交換を通じ、GAP 認証に関する理解の促進を図ることを目的に、「GAP 認証に関するオンラインワークショップ」を開催しました。

この研修は日本の農林水産省が ASEAN 事務局に対し拠出した資金で開催され、JA 全中が ASEAN 事務局より受託を受け、IDACA が実施しました。

今回のワークショップは新型コロナウイルス感染防止対策により日本での開催が困難となったため、アセアン 10 カ国とアセアン事務局(インドネシア)をオンラインで繋ぎ、オンライン拠点を IDACA において 2020 年 6 月 23 日～24 日にかけて 2 日間実施しました。アセアン 10 カ国から 23 名の



オンラインワークショップ IDACA 会場

GAP 推進担当行政官および民間企業が参加し、今後の GAP 推進の課題と方向性をフューチャープランとして作成し発表しました。

GAP 認証実践農場として、千葉県富里市の斎藤知秀さんの農場(小松菜生産とスーパー等との契約販売)について、事前に農場における GAP の実践状況を収録して、オンラインで紹介するとともに、ワークショップ当日には IDACA まで来ていただき、参加者の質問に直接回答していただきました。

オンラインワークショップの内容は以下のとおりです。

- (1) 基調講演(食品安全の考えと世界のトレンドに基づく GAP 認証の価値: 東京海洋大学 学術研究院 食品科学部門 松本 隆志 教授)
- (2) 各国の GAP 推進の現状、および課題や問題点、成功例等の情報共有
- (3) 講演、情報共有を受けて、各国で今後の GAP の推進の方向性を議論
- (4) 各国で GAP 推進の Future Plan を作成・発表
- (5) JGAP/ASIAGAP 認証取得農場斎藤ファーム(千葉県富里市)の紹介

2 日間に渡り、カントリーレポートからフューチャープラン発表まで、かなりハードなスケジュールでしたが、参加者の熱心な協力により IDACA が実施した初めてのオンライン研修にもかわらず、所定の目的を達成することができました。



斎藤農場の事前収録風景



斎藤農場で働く技能実習生(タイ、ベトナム)



（3）アセアン「フードバリューチェーン構築のための農業協同組合能力強化に関するオンラインセミナー」

セミナーは講義、収録動画視聴および演習を組み合わせて実施しました。オンラインセミナーにおいて、通常の研修では現地視察のところを収録動画視聴に替えましたが、なるべく参加者が臨場感を持って参加して、質疑応答にも応える体制を作りました。加えて、各国の参加者が2～3名として、フューチャープランの作成のためのグループ討議の時間を設けました。

また、参加者がWEB会議や機材の操作に慣れていないことを考慮して、各国のナショナル・フォーカルポイントのスタッフの中から、IT担当者を支援スタッフとしてセミナー期間張り付けしてもらうことにしました。WEB会議機材としてWEBカメラ、マイク、接続コード購入費を支援しました（実際に購入したのはラオス1カ国のみ）。

新型コロナ感染拡大が東京都を中心に進んでい



開講式（IDACA）

る時期であり、茨城県における事前収録は県域を超える移動自粛の直前に実施できましたが、感染拡大が続く中、セミナー当日には茨城県から東京への移動は控える状況となり、茨城県の講師はオンラインで発表することとなりました。

各国とも、新型コロナ感染拡大の中で感染に注意しながらオンラインセミナーに参加しました。残念ながらフィリピンは都市部への移動が禁止された時期であり、今回の参加を見送りました。また、シンガポールでも該当する参加者の確保が難しいとして参加を見送りました。

このようなギリギリの状況でオンラインセミナーに最後まで参加していただいた研修員、ナショナル・フォーカルポイント、アセアン事務局、農水省、講師の方々およびJAグループ茨城県のご協力に感謝いたします。



事前収録 JA 全農いばらき中央 VF ステーション



事前収録 JA 全農いばらき「ポケットファームときどき」



事前収録 JA なめがたしおさい管内園場

セミナーの成果としてフューチャープランが 8 か国において作成されました。農業協同組合の発展状況がそれぞれ異なることから、フードバリューチェーン構築のためには、農協組織育成から始める国もあり、実際にフードバリューチェーン構築に農協が貢献している国もあります。家族労働を基本とした小規模零細な農家がグローバル・フードバリューチェーンの流れに乗るためには農協組織を強化して、民間企業や外国企業と協力して、Win-Win の関係を作ることが重要であり、強い安定した農協組織は民間企業の投資リスクを軽減し、投資意欲を高めることにつながります。

また、今回のセミナーでは様々な農産物販売方法に加えて、食の安全確保、残留農産物の診断について必要性を強調した。セミナーでは農協の営農指導、GAP への取組み、生産履歴の記帳、生産履歴が正しいことを科学的に証明するための JA

全農いばらきの分析センターの持つ残留農薬検査証明書の発行、日本の生活協同組合の進める減農薬農産物購入に関する JA との契約栽培等の活動を紹介しましたが、研修員からは大きな反応がありました。



講義風景（IDACA）



アセアンオンラインセミナーに参加させていただいて

JA 茨城県中央会 県域営農支援センター
農業経営支援室 次長 松本 聡

7 月 27 日から 31 日かけて開催された「フードバリューチェーン構築のための農業協同組合能力強化」に関するオンラインセミナーに関わらせていただいて改めて我々の協同組合事業について見つめ直すきっかけとなりました。照沼氏が仰っていましたがアセアン各国においては、小規模家族経営のもと、農業生産と販売を同時に行うことにより生計を立てており、小規模であるが故に労働力が限られます。結果、必要な労力を注げず、生産物については高品質なものを産出できない。また、販売においても品質が悪い生産物の販売となるため、思うような収入が得られない現状に改めて考えさせられました。逆に考えれば、我が国で運用されている既存のシステムが有効なのではないかと気づかされました。そのためには、今回のセミナーで主要なテーマとなった JA の共同販売システム、農産物の安心安全対策及び JA の営農指導について学んでいただいて JA がフードバリューチェーン構築に果たす役割を理解してもらうことは非常に効果的で上述の負のスパイラルを脱却するための大きなヒントとなるように思われます。最後になりましたが、コロナ禍で非常に困難な状況下にあります、このような研修を通して現状の改革を進め、より発展していくよう、心から祈念し筆を置きたいと思います。

《IDACA Facebook 情報》

(1) 日本政府の公式 Facebook に IDACA の記事が掲載されました！

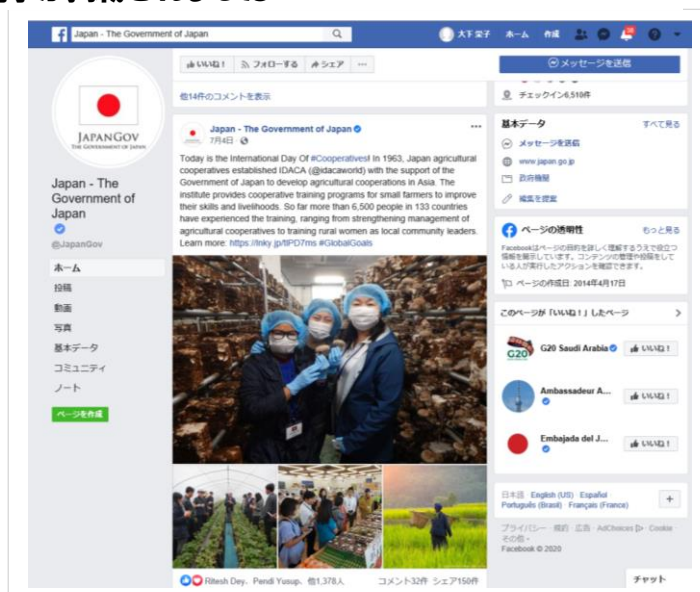
協同組合デー（7月4日）に合わせて、日本政府の公式 Facebook 英語版に IDACA の紹介記事が掲載されました。

ご関心のある方は次の URL にアクセスし詳細
をご覧ください。

<https://www.facebook.com/JapanGov/posts/3137120429678401>

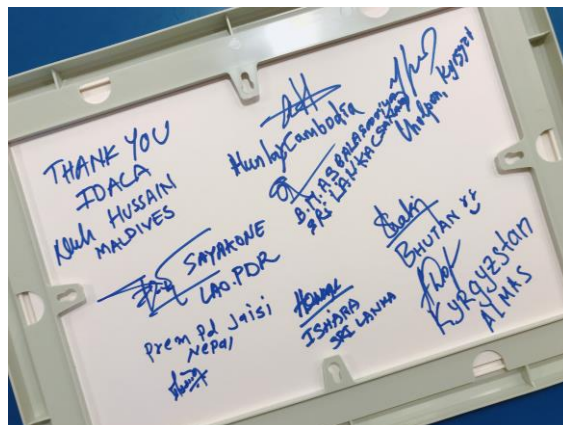
また、世界の協同組合の活動を集めた [#Cooperatives](#) からアクセス可能です。

これからも IDACA の活動の様子を様々な機会を捉えて紹介していく予定です。



(2) IPACA Facebook に紹介記事をシリーズ掲載

コロナ禍の中、年内の研修はほぼオンラインとなり、いつもなら研修員の声飛び交う施設内も現在は閑散としています。研修に参加したことのある元研修員やこれから研修に参加予定の方、日本国内で国際協力に興味のある方などを対象に、IDACA Facebook に紹介記事を3回のシリーズで掲載することにいたしました。シリーズの第1回目は「IDACA 研修参加者の寄せ書き」、第2回目は「IDACA の歴史」、そして第3回目は「IDACA の今」です。その間にオンライン研修や Web セミナー等がありますので、最新の研修情報はその都度掲載して行きます。



編集後記

無観客で実施された大相撲を観ていると、普段は気づかなかった様々な音に驚かされる。力士の体と体がぶつかり合う音、土俵から転がり落ちるときの音、力士たちの息遣い、行司や呼び出しの声等々、普段なら観客の歓声で殆ど聞くことができない音だ。

ここ IDACA も主役が不在の状況が続いている。聞こえてくるのはセミの声と風の音、そして事務所内に低く響くクーラーの音…。都会の喧騒に比べたら高尾の山奥はずっと静かだが、今年の静けさはひとしおだ。

